

令和5年度
事業報告

令和5年4月 1日から
令和6年3月31日まで

公益財団法人 立山カルデラ砂防博物館

1 基本方針

- (1) 「立山カルデラの自然と歴史」及び「砂防」の二つのテーマを、「知られざるもうひとつの立山」と位置付け、博物館活動を通して広く紹介する事業を展開した。
- (2) 立山砂防の世界文化遺産登録を目指す情報発信を積極的に行った。
- (3) 立山黒部アルペンルート来訪者に、立山の自然の素晴らしさと脅威について紹介した。

2 展示活動

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、公益財団法人日本博物館協会が作成した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を遵守した対策を行った。(～5月7日)

(1) 常設展示、映像上映

立山カルデラの自然と歴史及び砂防を体系的に展示・紹介した。

① 立山カルデラ展示室

立山カルデラの生い立ち、大型地形ジオラマ、飛越地震と安政の大災害、立山カルデラの動植物・気象、立山カルデラと人とのかかわり（立山温泉、近代登山）、立山の氷河等及び立山区域平面図レプリカ等を展示。

② SABO展示室

立山砂防の歴史、土砂災害とは、砂防の役割、白岩砂防えん堤、工事用トロッコ等展示。

③ 大型映像ホール

映像プログラム「立山カルデラ大地のドラマ」「崩れ」「タイムトラベル 常願寺川」を毎日上映。ただし、感染症対策のため、3Dメガネの使用を中止し、2Dでの上映を行った。また、換気や消毒を徹底するため、定員を減じ、上映回数を1時間に1本とした。

④ エントランスホール等

- ・ 立山の風景写真や「常願寺川砂防施設」の懸垂幕を展示。
- ・ 世界文化遺産登録に向け提案している内容を編集した映像を常時上映。
- ・ 国重要文化財指定を受けた「常願寺川砂防施設」の模型3種類を設置。
- ・ 立山の自然コーナーを設け、立山の風土について展示。



県営砂防コーナー



常願寺川砂防施設模型



立山の自然コーナー

(2) 企画展・特別展

調査研究活動の成果を集大成して、話題性のあるテーマや常設展示で扱っていないテーマを中心に開催した。

- ① 特別展「雪の壁のひみつ」
春の立山の風物詩「雪の大谷・雪の壁」に隠された秘密を紹介。
令和5年4月14日（金）～5月21日（日） 入館者 7,894名
- ② 岩橋崇至写真展「立山黒部」
日本を代表する山岳写真家である岩橋崇至氏の立山黒部をテーマとした大型作品を紹介。
令和5年4月14日（金）～5月21日（日） 入館者 7,894名
- ③ 土砂災害防止月間特別展「ハザードマップ」
防災・減災に役に立つハザードマップの活用方法や富山県内で整備されている様々なハザードマップを紹介。
令和5年5月27日（土）～7月2日（日） 入館者 2,826名
- ④ 企画展「歪み動く大地」
馴染み深い郷土の景観や暮らしの中に見え隠れする、歪む大地の営みを紹介。
令和5年7月22日（土）～9月24日（日） 入館者 7,850名
- ◆関連イベント
- ・講演会
日時：令和5年8月20日（日） 参加者 60名
講師：伊藤 久敏（一般財団法人電力中央研究所研究員）
安江 健一（富山大学都市デザイン学部准教授）
 - ・展示解説
日時：8月11日（金・祝）、9月9日（土）、9月24日（日）
講師：竹内 章（富山大学名誉教授）
安江 健一（富山大学都市デザイン学部准教授）
- ⑤ 特別展「大正昭和の土木技術者－蒲孚－」
大正昭和の土木技術者、蒲孚（かば まこと）の業績や本宮堰堤についてパネルで紹介。
令和5年10月3日（土）～11月30日（木） 入館者 4,733名
- ⑥ 特別展「写真でみる立山の地形」
立山黒部アルペンルートの車窓から見ることができる河川地形、火山地形、氷河地形など様々な地形について多数の写真で紹介。
令和5年10月3日（土）～12月27日（日） 入館者 5,116名
- ⑦ 写真展「素晴らしい自然を」
日頃から自然に接している富山県自然保護協会の会員などが感じた自然のすばらしさや不思議さを撮影した作品を展示。
令和6年1月6日（土）～2月4日（日） 入館者 306名
- ⑧ 収蔵品展「富山のいきもの」
富山にくらす鳥や獣のはく製、さわれる毛皮などの標本を展示。
令和6年2月10日（土）～3月31日（日） 入館者 1,342名
- ⑨ 公募写真展「レンズが見た立山・立山カルデラー大地と人の記憶－」

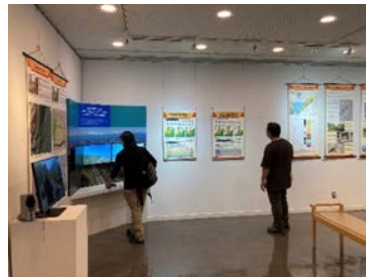
立山カルデラの風景や生き物、自然と調和する砂防堰堤や砂防工事とそれに携わる人々、そして砂防体験学習会参加者の感動の表情を捉えた写真を集め、より多くの方々に立山カルデラに対する理解を深める写真展を開催。

令和6年3月2日（土）～3月31日（日）（会期は4月7日（日）まで）

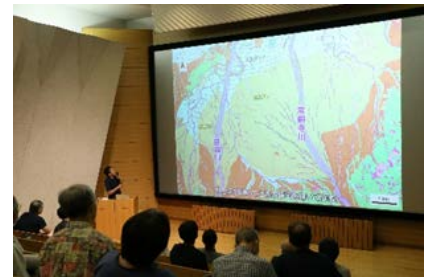
入館者 831名（会期中1,053名）



特別展の展示風景



企画展の展示風景



特別講演会

(3) サテライト展示

富山県防災危機管理センターにて、サテライト展示をおこなった。

(4) 共同企画展「立山さんろく 自然の魅力」 富山市科学博物館特別展示室

富山市科学博物館との初の共同展示で、立山さんろくの自然とその魅力を紹介する。令和6年度には当館でも開催予定。

令和6年3月2日（土）～5月19日（日）

(5) 入館者の状況

令和5年度の入館者は27,861人であり、前年度より2,029人（前年比108%）上回った。今年度末での累計は1,135,699人となった。入館者数を月別で前年度と比較してみると、4月・5月は924人増加、夏休み期間にあたる7月・8月は53人減少、シルバーウィークを含む9月・10月は303人増加、閑散期にあたる12～3月は355人増加した。

3 立山カルデラ砂防体験学習会の開催

一般公募により見学者を募り、博物館の野外ゾーンである立山カルデラを実際に訪れ、立山カルデラの自然や歴史、砂防事業について理解を深める体験学習会を、国土交通省立山砂防事務所の協力を得て実施した。ただし、感染症対策のため、定員を減じての実施となった。

(1) 開催状況

7月から10月中旬にかけて41回計画し、28回実施した。（実施率68%）

（応募総人数は3,812名、参加者総数は527名であった。）

① トロッココース（個人・団体）

【22回計画／14回実施 330名参加】

立山カルデラ内の見学ポイントを巡り、砂防施設や崩壊地特有の自然を実体験する。往復どちらかでトロッコに乗車し、常願寺川沿いの砂防施設も見学する。

② トロッココース（砂防専門団体）－新設－

【6回計画／2回実施 50名参加】

砂防の解説に特化したコース。立山カルデラ内の見学ポイントを巡り、砂防施設や崩壊地特有の自然を実体験する。往復どちらかでトロッコに乗車する。

- ③ バスコース（博物館） 【4回計画／3回実施 68名参加】
 富山駅からバスに乗り最も多くの見学ポイントを巡るコースで、砂防施設や崩壊地特有の自然を実体験する。明治期の県営砂防（金山谷山腹工）の見学も行う。
- ④ バスコース（周知強化） 【7回計画／7回実施 45名参加】
 富山県観光振興室が主導する立山黒部国際ブランド化の一環として広報・募集（周知強化）を行う富山駅発着のバスコース。（見学場所はバスコースと同様）
- ⑤ バスコース（黎明期の砂防探訪） 【2回計画／2回実施 34名参加】
 明治～大正期に富山県が築いた立山カルデラ奥地にある石積み砂防えん堤などを訪れるコース。健脚者向けで、山道を2時間程度歩けることが参加の条件。安全管理者として立山ガイド協会の山岳ガイドが引率した。

(2) 解説員研修会の開催

立山カルデラ解説員、富山県砂防ボランティア協会会員、立山神通砂防スペシャルエンジニア会員を対象に、研修会を開催した。

① 第1回研修会【5月18日】

- ・講 議 「立山カルデラにおける今年度の砂防事業概要」
- ・協 議 「体験学習会の概要・変更点について」

② 第2回研修会【6月17日】※荒天のため、中止※

現地研修 バスコース（六九谷展望台、金山谷山腹工、白岩えん堤等）

③ 第3回研修会【6月21日】※荒天のため、中止※

現地研修 トロッココース（六九谷展望台、立山温泉跡地、白岩えん堤等）

(3) 体験学習会の申込状況

申込件数の約89% がインターネットでの申込みとなった。



立山カルデラ砂防体験学習会の見学風景

4 立山砂防の世界文化遺産への登録を目指す情報発信

- (1) 大型映像装置（103インチ）で「立山・黒部 世界遺産に向けて」映像をエントランスホールにおいて常時放映

(2) 講演の実施

実施日	対象	場所
8月24日	ザ・キョウヨウナイト!Vol.3 スペシャル砂防トーク	Café54
8月24日	富山県大学コンソーシアム 富山地域学	富山県民会館
8月29日	第51回画像電子学会年次大会 講演	富山県民会館

他

(3) 2階に砂防展示コーナーを常設、模型等で常願寺川砂防施設を紹介

(4) 常願寺川砂防施設等を見学する立山カルデラ砂防体験学習会の開催

(5) 立山カルデラ、地震と洪水、川を治めた人びと、砂防等についてやさしく解説した冊子「立山カルデラたんけんブック」を来館した小学生に配付

(6) 国際世界遺産登録推進シンポジウム 2023 への協力

5 普及活動

(1) 学校行事における児童生徒の利用促進

飛越大地震やその影響による常願寺川流域における土砂災害を克服してきた先人達の努力・砂防事業等を児童生徒に学んでもらうため、総合学習等による博物館への来館を提案した。来館校に対しては、学芸員が展示の解説をよりわかりやすく重点的に行った。また、小中学生を対象としたリーフレットを配布した。

(2) フィールドウォッチング

立山カルデラ以外の野外ゾーンを訪れ、立山周辺及び常願寺川流域についての自然や砂防治水についての理解を深めた。感染症対策のため、定員を減じて実施した。

① 「春の立山・雪の大谷」 【5月7日(日) 47名】

雪の壁を実際に訪れ、世界的な雪の量を体感した。

② 「材木坂と美女平」 【5月27日(日) 13名】

材木坂を美女平までたどり、独特の地質や植物について観察した。

③ 「弥陀ヶ原大地と称名滝展望」 【6月11日(日) 16名】

歩くアルペンルートを下りつつ、火山と川によってつくられた景観を楽しんだ。

④ 「立山の氷河眺望」 【8月27日(日) 23名】

立山の氷河地形を巡りながら、雄山山頂から立山の氷河を眺望した。

⑤ 「室堂山とカルデラ展望」 【9月3日(日) 13名】

室堂山へ登ってカルデラを望み、その自然や砂防事業を理解した。

⑥ 「弥陀ヶ原とカルデラ展望」 【10月1日(日) 21名】

紅葉の弥陀ヶ原を散策し、松尾峠から立山カルデラを望んだ。

- ⑦ 「秋の称名滝と常願寺川砂防治水探訪」【10月20日(金) 18名】
常願寺川をたどりながら、大転石、砂防治水施設等を見学した。

- ⑧ 「立山の雪を体験しよう」 【2月3日(土) 13名】
雪の結晶づくり実験、雪壁の観察を行い、立山山麓のフィールドを歩いた。



- (3) サイエンスショー2023 【7月29日(土)～7月30日(日) 411名】
県外から「実験名人」5名を招くと共に当館学芸員も参加し、自然現象の不思議や土砂災害等の自然の脅威をテーマとしたサイエンスショー及び実験ブース展示を実施した。

講師：「雪と氷の不思議」平松 和彦 氏（土別市立博物館 特別学芸員）

「山から川、海への水と土砂の流れ」

目代 邦康 氏（東北学院大学教養学部地域構想学科 准教授）

「防災ふしぎ実験」納口 恭明 氏（国立研究開発法人防災科学技術研究所 専門員）

罇 優子 氏（国立研究開発法人防災科学技術研究所 職員）

「断層を味わおう」安江 健一 氏（富山大学都市デザイン学部 准教授）

- (4) 国立登山研修所共催「令和5年 安全登山サテライトPlus」

【8月10日(金・祝) 会場37名、オンライン110名】

山の日に安全登山に役立つ「山と自然」の知識について学ぶことのできるセミナーを開催した。（現地・オンライン参加併用）

- (5) 冬の立山・博物館講座「はじめてのぶらかんじき」 【2月17日(土) 8人】

立山かんじきやスノーシューを履いて、学芸員と常願寺川の河原をたどり、雪や動植物の専門的な話題に触れながら、冬ならではの体験を楽しむ野外講座を実施した。

- (6) 移動博物館

出前講座として、積極的に館外へ出向き、博物館のテーマに関する普及活動を行った。

- ① 県民カレッジ連携講座 【3月9日(土) 60名】

第1部は「友の会会員の活動から」、第2部は「山でクマと出会ったら」と題して学芸員1名、講師2名による集中講座を映像ホール等にて開催した。（後援：(一社)立山黒部ジオパーク協会）

講師：「だから私は山へいく」佐伯 克美 氏（友の会・解説部会員）

「立山温泉をしのぶ」「常設展示室 立山温泉コーナー解説」

山本 茂 氏（友の会会長・元博物館学芸課長）

② 市民大学等との連携講座

市民大学や地域公民館等において、「立山カルデラと砂防」、「立山の自然」、「立山の氷河」、「地震と活断層」、「動物と植物」等の専門的な講座を開催した。

実施日	対象	場所
5月11日 5月25日 6月22日	富山市民大学「うまい水のルーツを探る」	大山地域行政センター 博物館
6月14日 10月25日	富山市民大学「立山黒部ジオパークを知る」	市民学習センター
11月14日	さばえけものアカデミー	福井県 鯖江公民館
3月13日	南砺市民大学「立山の雪の世界」	南砺市文化創造センター「ヘリオス」

③ 国土交通省立山砂防事務所の活動「水辺の楽校」への支援

④ 高等学校等自然科学フィールド研修への協力

実施団体： 富山県立入善高校、千葉県立千葉高校、立命館守山高校、東海中学校



サイエンスショー



ぶらかんじき



博物館講座

6 調査研究活動

博物館のテーマに関わる調査研究、資料収集を積極的に実施し、その成果を博物館活動（展示、普及活動等）に利活用した。また、調査研究は、文部科学省科学研究費補助金の助成等の外部資金も得て実施した。

(1) 令和5年度における調査研究（主なもの）

- ① 立山連峰で発見された氷河の形成維持機構に関する調査および新たな氷河の確認調査
成果：御前沢氷河、三ノ窓氷河、小窓氷河等で航空機による測量観測、ドローンによる精密測量を継続実施した。
- ② 治水史料・砂防の調査
成果：高田雪太郎史料の翻刻を継続した。また、大正昭和の土木技術者、蒲孚の史料が発見されたことによりその解析を行い、その成果を特別展に利活用した。
- ③ 立山、立山カルデラの火山活動（地殻活動）、堆積物についての調査
（含 東京工業大学等との共同研究）
成果：火山活動が活発化している地獄谷や新湯について、継続モニタリング調査を実施し、近年の活動状況を明らかにした。

- ④ 立山山岳地域における降水量、積雪量調査（含 名古屋大学との共同研究）
 成果：立山高山地域（室堂平）の積雪量、降雨量の観測を継続して行い、近年の気候変動に対する応答特性を把握するための基礎データとした。また、山岳地帯での遭難事故を防止するため、立山地域の雪崩について調査研究を実施し、富山県立山雪崩情報（HP）の基礎データとして活用し、山岳遭難防止に活かしている。
- ⑤ 立山・立山カルデラにおける動物の生息・生態調査
 成果：ツキノワグマの異常出没が発生したため、周辺でのツキノワグマの出没状況、痕跡についての追跡調査を実施した。また、遭遇した際の対策について、マスメディアを通して広く県民に普及した。そのほかの大型動物について、生息実態を明らかにするために実地調査、モニタリング調査等を実施した。
- ⑥ 立山カルデラの植生調査（県中央植物園等との共同研究）
 成果：カルデラ内の植生遷移を確認するため、航空写真資料の収集解析を継続して実施した。また、博物館の見学会や展示で研究成果を広く普及した。
- ⑦ ドローンを使用した空撮動画、写真の収集調査
 成果：氷河、火山、植生、県営砂防堰堤等の各調査で、ドローンを利用して動画、写真を撮影収集し、現場状況把握や測量、映像制作の基礎資料とした。



7 情報提供事業

- (1) 年報の発行
 博物館の一年間の活動を集約する年報を発行した。
- (2) 博物館だよりの発行
 「研究と解説」「活動報告」「ニューストピックス」「砂防ページ」等で構成した博物館だよりを発行し、博物館情報の周知に努めた。
- (3) イベントポスター・イベントガイドの発行
 「イベントポスター」「イベントガイド・リーフレット」の他、毎月「イベントニュース」を発行し、博物館のイベント等の広報に努めた。
- (4) ホームページによる情報提供 等
- ① ホームページを頻繁に更新し、各種イベント及び最新の情報を提供した。
 - ② ソーシャルネットワーキングサービス（Facebook、Instagram、X等）で、リアルタイムの情報を提供した。
 - ③ 館内でFree Wi-Fiを提供し、来館者の利便性向上に努めた。

(5) 友の会活動

- ① 交流視察会（雪形見学ツアー）の開催
- ② ジオツアー（芦峠寺、尖山）の開催
- ③ 県内視察会（アルペンルートバックヤードツアー）の開催
- ④ 解説部会活動
 - ・部会ミーティング2回
 - ・研修3回
 - ・繁忙期の館内解説3回（GW、夏休み期間、秋の連休延べ35名参加）
 - ・千寿ヶ原ガイドツアー（千寿ヶ原ぶらさんぽ）3回 21名参加